

## 堀井重樹校長への謝辞（三月十七日 離任式にて）

カンタベリー日本語補習校、運営理事長の松崎でございます。本日は、ご多用の中、堀井重樹校長の離任式にご参列いただき厚くお礼申し上げます。

堀井校長先生は、日本の文部科学省から本校に派遣され、二年間の任期を満了されて、三月二十日に日本に帰国されます。本日が本校で執務される最後の日となります。堀井校長先生は大阪府で長く教職に携わり、校長経験はもとより教育委員会での指導経験、さらにサンフランシスコ日本語補習校での校長経験も含む豊富な経験と、高い指導力をお持ちの「スーパージャン」です。日本でもなかなか得難いような「スーパージャン」を頂くことができたことは、本校にとって大きな幸運でした。

堀井校長先生は、「学校とはどういうものか」、「学ぶとはどういうことか」、「学級指導はどうあるべきか」という本質的で大きな事柄について、私たちに考える機会を与え、運営理事、児童生徒と保護者、そして教職員のそれぞれが本気で各々の課題に取り組むようご指導くださいました。これは、何が重要かの確認と、達成すべき課題を明確にする上でとても大切なことでした。

その上で、具体的に様々な取り組みをされ、業績を残されました。そのいくつかを列記すれば、

- 一、ウェブサイトの上上げと運用
- 二、校長通信「カンタベリーの風」の発行（二十二号）
- 三、教員研修や公開授業研究会の実施
- 四、校務分掌の整備による学校組織の確立
- 五、日課表の見直しによる合理的な時間配分
- 六、「活動の時間」の導入
- 七、児童生徒会の立ち上げ
- 八、通知表（あゆみ）の改定と4段階評価の導入
- 九、シドニー日本人学校への自主的な視察研修

などなど、本校初の画期的な取り組みが少なくありません。その他にも本校の不十分な点をご指摘いただき、改善のご提案や課題をたくさんいただきました。時には、厳しいご注文やお叱りをうけたこともございましたが、それも本気で取り組むことを教えんがための事であつたためと理解し、感謝しております。

その一方で不運だったのは、この二年間のうち、一年半が大地震の影響下にあつたことです。着任されてからまだ半年足らずの二〇一〇年九月四日、マグニチュード七・一のカンタベリー地震が発生し、さらに翌年二月に起こつた最大余震はクライストチャーチに壊滅的な打撃を与え、多くの人命と家や仕事が失われました。追い打ちをかけるように、日本では東日本大震災が発生しました。これらの出来事を、私たちは決して忘れることはないでしょう。補習校も数週に及ぶ休校を余儀なくされ、全く予想外の事態となりました。そのような状況下で堀井校長先生は、教職員を鼓舞し、迅速な安否確認や児童生徒の心のケア、災害対策の整備など、冷静かつ率先して事態に対処されたことに、深い尊敬と感謝の念を覚えました。

クライストチャーチの復興にはまだまだ時間がかかりそうですが、補習校の子どもたちや卒業生たちは、私たちの希望であり、日本人コミュニティの、そして日本とニュージーランド両国の希望でもあります。子孫に託せる安全で美しい街を、私たちは子どもたちとともに再建していききたいと思えます。機会がありましたら、どうぞまたこの地を訪れられて、子どもたちの成長と街の復興をご覧いただきたく存じます。

極めて困難なこの時期に、補習校をご指導くださった堀井重樹校長先生に、関係者一同を代表して改めて深い感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

平成二十四年三月十七日

カンタベリー日本語補習校

運営理事長

松崎一広